

スポーツ外傷・障害に対する PRP 療法

PRP 療法って知っていますか？

「有名スポーツ選手が PRP 療法により手術を回避できた」などといった報道で耳にしたことがある方も多いかもかもしれません。しかし、実際に治療を受けたことがある方、詳しい治療方法について知っている方は少ないのではないのでしょうか。

今回は PRP 療法に関して、日本での現状もふまえてお話させていただきます。

【PRP 療法とは】

PRP は platelet-rich plasma の略で日本語では多血小板血漿といいます。これは血液中に存在する血小板に何らかの加工(多くは遠心分離)をして、血漿濃度を高くしたものです。血小板中には自己修復に必要とされる成長因子やサイトカインといったものが沢山含まれています。損傷部位に PRP を投与することで自己再生能を高めようという治療法が PRP 療法です。



PRP 療法の流れ

採血した自分の血液を用いているので、大きな副作用はありません。様々な組織での効果が期待でき、スポーツ整形外科分野のみならず、歯科口腔外科や美容形成でも使われています。

【位置づけ】

実際の臨床現場での科学的な裏付けがまだ十分でなく、現在は保険適応ではなく自由診療となっています。そのため、標準的な保険治療で効果が得られない難治性の疾患に対する治療という位置づけになっています。組織(血液)を採取し、加工(遠心分離)した後に、患部へ投与することから、再生医療に分類され、厚生労働省の認可を得た施設でしか施行することができません。

【対象となる疾患】

スポーツ整形分野においては、血流に乏しくもともと自然治癒能力が低いとされる腱や靭帯のオーバーユースによる障害に対して行われることが多いです。また、関節に対しても行われています。

具体的には、テニス肘、ジャンパー膝、内側側副靭帯、アキレス腱障害、変形性膝関節症などで効果があったと報告されています。

【PRP 療法の現状】

海外に比較すると、日本では普及がすすんでいません。原因としては iPS 細胞など再生医療に力を入れた法の整備をした結果、認可された施設がまだ少ないこと、国民皆保険の制度の整った日本において、高額な自由診療(1回数万~数十万円)は受け入れられないということもあります。

現在、県内には認可された施設がなく、弘前大学医学部附属病院で関節および筋・腱・靭帯に対する PRP 療法が施行できるように準備中です。

早期復帰を希望する場合や内服や他の注射の効果に乏しいが、手術はさけたいといった方は、検討してみてもよいと思います。